

領域	学校運営							学校運営									
	開かれた学校づくり		生徒指導			進路指導		進路指導		教職員の資質向上							
項目	家庭や地域の人々への情報発信		生徒指導方針の確認と指導体制の推進			生徒の内面の理解を図る指導の工夫		進路指導体制の充実		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上			実践的指導力の向上		計画的な研修の実施		
実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研修会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。	「相談室だより」や教育相談に関わる掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。	定期発送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。	進路指導部と担任が情報を共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。	正規就労の意味や大切さ、就労のしかた等を十分に理解させ、生徒の就労への意識を高める。	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報図書等の各分掌が全教員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。	特別支援教育コーディネーターを軸に研修を進め、教職員全体の支援能力の向上を図る。			
自己評価																	
成果	4.05	3.99	4.21	3.38	3.31	3.75	3.78	4.21	3.75	3.59	3.56	3.84	3.97	3.65			
成果	定期発送物や「青雲通信」などを通じて、生徒・家庭に必要な情報を継続的に発信した。また、学校ホームページ作成にあたっては、内容を常に更新し、最新情報の発信に心掛けた。	オープンハイスクールでは、中学生とその保護者などに対して、通信制に対する理解や認識を深めることができた。ふれあい祭には多数の保護者や地域住民が来場し、本校教育の一端を理解していただけた。生徒同士、生徒・保護者と教師、学校と地域社会とのつながりをより強くするためにも、各学校行事への積極的な参加を促すための取り組みを進めていく必要がある。	スクーリング時、中庭に教員が常駐することで、何かの時には、ここに来ればよいという安心感を生徒に持たせることができていた。またインフォメーションの役割も果たせている。	春の交流会や秋の遠足の内容をより充実させることで、参加者からは好評を得ており、次年度に参加希望者が増加するのではと期待が持てる。	地域の清掃活動については、生徒会役員以外の生徒も関心を寄せて一緒にゴミを集める姿が見られ、毎回必要な人員が確保できている。またこれをきっかけに生徒会の活動に興味を持つ生徒もおり、次年度の執行部の候補となっている。	今年度のカウンセリングは、前期6回(延18人)・後期13回(延41人)実施した。カウンセリング後、適切にカウンセラーと担任とがカンパレンスを行い、生徒の理解や支援に努めた。また今年度は、カウンセラーと養護教員を交えた教育相談委員会を実施し、そこで課題になった「学校に来ることはできない生徒」を職員研修のテーマとして、その原因や対応について意見交換を行い、認識を深めることができた。	前期・後期開始前や日程追加等変更時に「相談室だより」を発行し、カウンセリング実施日程のお知らせを行った。また、相談室前に予約状況を掲示し、当日のキャンセルにより空きが生じた場合にもすぐに対応できるようにした。学校HPに掲載した「カウンセリング予約状況」がよく活用され、昨年同様、事前予約だけで毎回詰まっている状況であった。	「進路のしおり」では、入試説明会等の最新情報を反映させる紙面づくりを心掛けた。「進路のしおり」、各種説明会資料は学校HPに掲載した。進路指導室では従来の資料に加え、1年次向けの資料、保護者向けの資料を充実させた。	進路相談に訪れた生徒・保護者の情報を担任と共有した。進路指導部と担任が協力して、面接練習や自己推薦作成の指導などを行い、進路実現を支援した。	ハローワーク神戸にて講話と求人票検索を体験する「ハローワーク体験ツアー」と、県内35校の専修学校で行われる「トキメキ仕事体験ひょうごカレッジ」を実施した。前者は4名(昨年0名)後者は、18名の生徒が延べ23校(昨年7名11校)に参加した。職業についての意識の向上、進路を真剣に考えさせる手がかりとなるように努めた。	「進路のしおり」等の配布物、HR、就職セミナー、就職説明会、希望者との個人面談等を通して、正規就労の意味や大切さ、就労のしかた等について、生徒の理解が深まった。就職支援員による精神的な面談により生徒の就労意欲が高まり、積極的な受験により内定率が大幅に高まった。また、5月にアルバイト説明会を行い、就労への意識づけに努めた。	学校評議員による授業参観は生活体験発表会の参観を兼ねて実施した。授業教室の巡回は概ね達成できたと思う。今後は授業参観を各自の学習指導やスクーリングに使用するプリント作成に生かすことが必要である。	本校の実情を把握し、各分掌が研修会を計画的に実施したところ、概ね全教員及び事務職員が参加し有意義な内容となった。研修会の講師は外部から招聘するものも多く、タムリーな研修内容となり、教員の知識やスキルがレベルアップした。	今年度実施した「不登校支援」に関する研修会は、教職員がこれまでの支援について再確認し、さらに一歩進めた支援へと踏み出す助けとなるものになった。また、参加した事務職員からも好評であった。			
アンケート	「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。	学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しましたか。	禁煙指導や校内巡視を進められていると思いますか。					キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれることを知っていますか。	「進路のしおり」を読んでいますか。(2・3・4年次のみ)※								
生徒評価																	
成果	3.67	2.25	3.38					2.61	3.04	2.13	3.45						
学校関係者	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通して家庭や地域との連携を深めていると思いますか。	安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると思いますか。	生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると思いますか。														
評価	・いつも学校の様子や投稿者の記事を読むのが楽しみ。HPも見やすくわかりやすい。地域や保護者の方の声もあるとよい。 ・地域に根ざした文化祭等について定期的な発行物を見て努力の姿が感じられます。 ・「青雲通信」をはじめとする発行物、seinn-webスクールや青雲eラーニング方式などの(教職員評価87%できた、生徒79%役立っている)(生徒67%使いやすい)アンケート結果からみて、広報活動はできていると考えられる。また、「事務室の窓口や電話の説明」についても7割の人が分かりやすいと感じており概ね評価できる。 ・生徒アンケート、教職員評価で高い評価となっている。生徒の保護者にとっても発行物や行事を通じて、学習はもとより、多面的で総合的な学校教育を実感することができる。 ・1年間休学していたため、学校から送られてくるクラス通信や学校通信は、学校、クラスの様子がよくわかり大変有難い。	・マニュアル作成努力されている。マニュアルをもとに生徒への具体的な避難訓練を今後行うとよい。 ・先生方があたたかく接していると感じます。 ・学校行事やクリーン作戦など地域行事への参加(参加した26%)、災害時の校内避難経路を知らない(あまり知らない)が87%だったことなどみると、若干意識が低いと考えられる。一方で、禁煙指導、校内巡視など安全な学校づくりが進められていることには一定の評価を受けている。(67%)(3) ・特に禁煙指導と校内巡視についての生徒アンケート評価と教職員評価の高さは、校門立番とあわせて教職員の熱心な取組の結果だと感じる。	・発達障害理解の研修やきめ細やかな生徒との関わりや支援に感謝。一人の生徒に複数の教師のまなざしが注がれることや社会福祉士を招くなど他校でみられない努力がある。 ・通信制の学校ということで、大変な生徒と、また人数的にも多くの生徒がおられ、教職員の先生方のご苦労は大変だと思うが、あたたかい学校の雰囲気而努力されていると思う。 ・キャンパスカウンセラーが相談にのってくれることが、あまり知られていないのは課題かと思います。 ・キャンパスカウンセラーと教職員との研修会を開催され、共通認識を深める努力がされている。キャンパスカウンセラーについての生徒アンケートは今後参考になると感じる。 ・青雲高校の先生は、担任や教科に限らず一人一人の生徒に心をつくさるるよう思う。														
今後の方策	・青雲通信においては、内容を精査し広報を充実させることで、生徒や保護者などに青雲高校に対する理解をより深めてもらう。	・オープンハイスクールと保護者授業参観とを別日程で実施し、それぞれの行事がより有効かつ充実したものになるように工夫する。 ・1年次生保護者会においては、新入生が学校生活に適応し、意欲的に活動できるように一助となる有意義なものにした。 ・生徒同士の人間関係が希薄な通信制高校にとって、行事が果たす役割は大きい。各行事をより魅力的なものとし、参加人数を増やしたい。	今後も引き続き、生徒が安心して登校でき、スクーリングや課外活動等に打ち込める環境づくりを柱として取り組んでいきたい。	生徒の興味関心を引くような魅力ある学校行事を目指して、春と秋の遠足や、文化祭等の学校行事を企画していきたい。	地域に貢献できるような活動に興味を持つ生徒が少しでも、増えるよう、生徒会を中心に、PR活動を広げていきたい。	少ないカウンセリングの時間を有効に活用するため、次年度は個人の相談だけでなく、小グループでのストレスマネジメントなどにも取り組みたい。 また、スクールカウンセラーだけでなく、本校の念願であったスクールソーシャルワーカーによるカウンセリングが実現することになったので、生徒の社会生活における課題にも取り組みたい。	次年度に始まるスクールソーシャルワーカーによるカウンセリングと、スクールカウンセラーによるカウンセリングの区別をつけるため、新しい名称や相談できる内容を生徒に周知する方法を検討したい。	「進路のしおり」では最新情報を反映させながら、レイアウト等の工夫により、生徒の興味・関心を引く紙面づくりを今後も考えていきたい。	生徒の情報を進路指導部と担任とで共有することを今後も発展させたい。各大学等主催の進学説明会に卒業年次担任の先生に多数出席してもらい、進路指導部と情報を共有したい。	トキメキ仕事体験ひょうごカレッジは参加者が増える傾向にあり、生徒への周知を図りたい。参加した生徒は楽しかったという感想を多く寄せたので、案内の仕方により一層工夫したい。	就職説明会に多数の生徒の出席を促したい。その後は面接等を精力的に、機会あるごとに正規就労の大切さを啓蒙していきたい。	お互いのスクーリングを見学し、生徒の実態に応じてスクーリングプリント・指導方法の改善に生かしていく。また、レポートの検討の時にもより自習しやすい教材への改善を検討していく。	本校の生徒の実態に即した研修内容を各分掌において把握し、計画的に研修会を実施し教職員の資質をさらにレベルアップしたい。	研修の成果を実際の生徒対応に活かせるよう事例研究などの機会を増やし、情報の共有にも努める。			

※集計の都合で、生徒評価のグラフには1年次生のデータ(無回答)が入っています。

領域	学校運営						課題教育							
	危機管理体制の整備			基礎・基本の定着			事務部と教職員との連携		安全・健康教育		人権教育		新しい通信制教育	
項目	実効ある学校マニュアルの策定	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	生徒の学力の把握と評価基準の設定			事務部と教職員との連携による生徒支援の充実		事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	健康に関する認識を高める取組み	人権教育推進体制への取組		インターネットの活用による新しい通信制教育の実現	
実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。	通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制を検討・工夫し、防犯に対する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組を行う。	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		事務部と教職員が連携して、環境への配慮をしながら教育活動を進める。	学校徴収金の徴収をはじめ、レポート・定期発送の受け渡しや各種の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会等を実施する。	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係を取り、生徒一人ひとりを大切に人権教育推進体制を構築する。	Seiun-Webスクールや青雲e-ラーニングを使い、生徒の学習支援を進める。	
自己評価														
成果	3.53	3.09	3.63	3.34	3.69		3.69	3.88	3.85	3.72	3.69	3.50	3.91	
成果	総務部と保健部がタイアップし、他校の資料等も取り寄せ研究のうえ、本校の実情にあった優れたマニュアルが完成した。	関係機関との連携については体制はしっかりとできているものの、家庭や地域との連携による危機管理体制については課題が残る。一方、教職員の安全管理に対する意識は高く、校内での避難訓練等は昨年より充実した内容であった。	年度当初に、防災管理組織とその任務を全職員で確認した。また、6月のホームルームで災害発生時の避難について、生徒に説明・確認をした。	交通安全に関して、長田警察から講師を招聘し、PPを使ったわかりやすい研修会を実施したことにより、教員も生徒も命の大切さを実感できるHRとなった。	基礎学力の定着を目指した入門科目を実施しつつ、生徒の実態に合わせて、レポートの問いかけ、解答方法、テスト問題などの内容に検討を加えている。		空調機の県設定温度の遵守・デマンド警報発令時の節電・印刷部数の見直しによる排紙の削減・裏紙利用の促進等、環境率先行動計画(ステップ4)の全庁目標達成に向けて職員一同で取り組めた。	今年度から事務長だけでなく、交代ではあるが事務室職員も職員会議に出席した。これにより、積極的に校務運営に参画できるようになったとともに、各部からの報告事項なども直接開けるようになり学校の情勢について理解を深めた。	毎月安全点検を行い、良好な学習環境の整備に努めた。不良箇所については事務室が迅速に対応し、多くの不適箇所の整備が行えた。水消火器や車椅子を使用した消防避難訓練を実施した。またスクリーニング時には、職員はQマスク(人工呼吸用携帯マスク)を携帯し万が一のための救急処置が取れるよう努めている。	「保健だより」を通じて、生徒の健康への関心を高めるように努めた。今年度も胸部レントゲン間接撮影に関しては、1年次生以外にも自費による受診機会を設けた。受診率は昨年度に比べ、1・2年次生は若干低下し3・4年次生は若干向上した。健康診断終了後は、個別に治療勧告を行った。保健室に来る生徒に対しては、丁寧な対応を行うことができた。	近通研人権部会での研修を通して、4年周期の学習が、本校の人権学習に適していると改めて認識することとなった。	今年度は「デートDV」をテーマにして人権学習を展開した。よくまとめられた教材と、わかりやすいDVDは、内容・時間設定が適切で、生徒は興味を持って、真剣に取り組むことができ、かなり成果があったように思う。その結果、多様な生徒一人ひとりを大切に学習が実践できた。	インターネットへの接続環境が、携帯電話・スマートフォンなども含めて、多くの生徒にとって一般的な環境になりつつある。生徒アンケートの評価をみると7割以上の肯定的回答が見られ、支援の場としてインターネットが活用されていることがよくわかる。今年度はインターネットを新たに利用する教科も増え、全体的に利用の幅が広がっている。自己評価も生徒評価も向上しており、この状態をより高められるよう、継続して取り組んでいきたい。	
アンケート	災害が発生したときの、校内の避難経路を知っていますか。			防災や交通安全に関する知識が身につく意識が高まりましたか。	青雲高校で、どのようにすれば単位が修得できるか、分かりやすいですか。	他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。		事務室の窓口や電話での説明は分かりやすいですか。			人権HRを通して、人権意識が高まりましたか。		Seiun-Webスクール(インターネット上のRS個人票など)や青雲e-ラーニングは使いやすかったですか。	
生徒評価														
成果	1.94			2.78	3.58	3.67		3.43			3.13		3.48	
学校関係者					通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がなされていると思いますか。								生徒の学習への興味・関心を高めたり、スクリーニング出席時間の不足を補ったりするために、インターネットや情報技術が活用されていると思いますか。	
評価					・「学習の手引き」なども利用しながら理解しやすくなっている。個別に対応しながら努力している。 ・よくわからないが努力していると思う。 ・生徒アンケートの結果をみると、生徒の理解を得る工夫をされていることがよくわかります。(入門科目の設定75%が「学習しやすい」) ・生徒アンケートで「単位の修得方法が分かりやすい」「入門科目があって学習しやすい」「事務室の窓口や電話での説明は分かりやすい」の回答が多く、教職員の皆様の努力の結果と思う。 ・入学した年には息子も慣れないシステムに戸惑っていたようですが、先生方や事務室の方の丁寧な対応に徐々に理解でき慣れていったように思う。								・努力されていると思う。 ・よくわからないが努力されていると思う。 ・webスクールやe-ラーニングなど、インターネットの活用による学習支援に力を入れており、その評価もまた得ておられると思います。(生徒アンケートから) ・生徒アンケートで70%が「インターネット、青雲e-ラーニングは使いやすい」と回答している。	
今後の方策	本年度完成したマニュアルをもとに研修を行い、全職員で安全安心な学校づくりに努める。	家庭や地域との連携による危機管理体制について、避難訓練等共に取り組める内容を検討していきたい。	災害発生時に生徒および教職員の避難がスムーズにおこなえるように努める。	生徒にとってわかりやすい身近な具体的事例を盛り込んだ研修会を開催し、生命の尊重を意識するHR指導に努める。	生徒へのアンケート結果、テストの結果などを参考に学力を把握する。入門科目、必修科目の評価する生徒の力を再検討し、テスト問題に生かすべく。		本校が環境に影響を与えるものの一番は、「用紙の使用量」であるが、紙は生徒達との大切な通信ツールでもある。教育の質を落とすことなく教育活動を続けていくために、今後も教職員とともに創意工夫を続けて削減に取り組みたい。	電話や窓口での対応に配慮を必要とする生徒や、介助が必要な生徒についての情報の共有等を中心がける。奨学金や、給付金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信する。	毎月の安全点検により、不適箇所の迅速な整備に努める。救急処置の対応力を高めるための研修会を実施する。	生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。「保健だより」を通じて、麻しんなどの予防接種を受けるように勧奨する。	生徒が、自分という存在を認めながら、固定的な考え方にとらわれず、家庭・学校・社会で気持ちよく暮らしているように、具体的な学習目標を設定したい。	身近な人権問題を取り上げることで、生徒が、自分や他人の価値観・生き方を主体的に考えるきっかけを作りたい。また、定期発送で、人権ホームルームを欠席した生徒にも送る資料が、理解しやすく、興味をもって取り組めるものになるよう、工夫を重ねたい。	技術社会の状況がめまぐるしく移り変わっており、通信制教育を支える基盤となる学習環境をどう整備すべきかについては課題も多いが、よりよいものを作り上げていけるよう努力したい。	